

1. 「2020 ネットであびこ子どもまつり」開催に寄せて

今回のまつりが生まれた経緯と意思をつづっています。

2. あびこ子どもまつりハローワーク導入の経緯

通常の会場開催で実施されてきたハローワークについて導入の経緯を紹介しています。

3. ボランティア募集のご案内

あびこ子どもまつりとハローワークのサポートを一緒に楽しみませんか。

4. あびこ子どもまつりの沿革

加筆してくださる方、ご連絡お待ちしております。

1. 2020 ネットであびこ子どもまつり開催に寄せて

あびこ子どもまつりは、障がいのある子どもをもつひとりのお母さんの「みんなが一緒に遊べる場をつくりたい」という発案から、1995 年に第 1 回が開催されました。雨天で企画を縮小して開催した年は何度かありましたが途切れることなく昨年の第 25 回まで続いてきました。今回、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による会場開催中止を受けて「2020 ネットであびこ子どもまつり」を開催することになりました。インターネット上での開催は初めての試みです。いつもの「ハローワーク」で子どもたちにお仕事体験をしてもらうことができないのは残念ですが、今回も子ども記者として感想を寄せてもらうコーナーと「つくれば」の動画や画像を送ってもらうコーナーも設けて双方向になる工夫をしました。生配信の企画もあります。

普段からインターネット上で活動している団体もあれば、YouTube に出展内容の動画をどうやってあげられるの？という団体まで様々な状況でしたが、あびこ子ネット管理者の森さんがサイトづくりから各団体のサポートまで担ってくださったおかげで、「コロナ禍でも子どもたちに向けてできることを考えたい」という実行委員の思いをこの準備期間でなんとか形にすることができました。

今回も例年と同じく企画出展と展示出展がありますが、ひとつだけの出展になった団体、いずれも断念した団体もあります。コロナ禍において、お互いの在り方を尊重して応援しあう空気をうれしく思っています。

これまであびこ子どもまつりを知らなかった市民のみなさんにも存在を知っていただく良い機会、まつりの維持継続に必要なボランティアさんとの出会いのきっかけにもしたいと思っています。

子どもたちの成長にともない、あるいは仕事上での責任が重くなったり、親の介護が始まる年齢になったりと様々な影響を受けて、実行委員も子どもまつりとの関わり方は変わっていきます。それでもまつりのコンセプトに共感するひとが中心にいてバトンをつなぎ、まつりが続いてきました。あびこ子どもまつりにはいつでも戻ってこられる、何歳になっても再びあるいは初めてでもボランティアとして関われる場所という空気がありますが、人材の確保は常に課題です。多くのひとが少しずつ担うことで子どもまつりの継続維持ができるよう、たくさんの方に関心をもっていただけるような働きかけをしていきたいと思います。

2. あびこ子どもまつりハローワーク導入の経緯

現在我孫子市の子どもまつりなどで行われている「ハローワーク」はドイツのミュンヘン市で行われている活動「ミニ・ミュンヘン」(<http://www.mi-mue.com/>)、そして千葉県佐倉市で行われている「ミニさくら」を参考に、2003 年のげんきフェスタから始まりました。げんきフェスタでの初めての導入から半年後、あびこ子どもまつりにも導入され、あびこカップ祭りでも同様にハローワークが展開されました。

あびこ子どもまつりでは、導入以後、団体出展と並んでハローワークがあびこ子どもまつりの中核をなすものとなっています。導入初年度はイベント通貨「アビー」を使用しない形でスタートしました。あびこ子どもまつりでは導入翌年の2004年から各団体をより連携させるためにアビーを活用しています。

<ミニ・ミュンヘンとは>

ドイツのミュンヘン市で、夏休み期間のうち3週間だけ誕生する仮設都市がミニ・ミュンヘンです。子どもが都市ならではの魅力を体感するとともに、都市がどのように運営されているのかを学ぶことができます。子どもたちによる都市運営プログラムです。

3. ボランティア募集のご案内

子どもがつくるまつりとして受付や仕事紹介といったパートも子どもが担うことに大きな意味があるといえますが、仕事紹介に適している小学校高学年から中学生にあたる子どもの参加が少ないため大人が少人数で担当することが多くなっています。ハローワークを卒業していく年齢の子どもたちをボランティアとして受け入れるにもまとめる人材が必要です。

出展団体が子どもたちの参加人数に対して十分な仕事数を準備提供できるようにするためには出展する大人たちの意思疎通も不可欠であり、細やかな連携を持続していくための人材確保が課題となっています。

子どもたちがハローワークに参加して積極的にひととふれあいながら小さな社会を経験する。大人は子どもたちの自主性を尊重しサポートに徹する。短い時間の中に子どもたちの成長を見ることができると大人にとってはハローワークの大きな魅力のひとつです。一緒にあびこ子どもまつりとハローワークのサポートを楽しみませんか。子どものための子どものまつり「あびこ子どもまつり」は、まつりを支える大人の仲間づくりの場でもあります。

市内・近隣在住でひとと話すが好きな方、子どもが好きな方、ボランティア参加へのお申込み、お問い合わせ、どうぞお気軽にお寄せください。お待ちしております！

連絡先 2020abikokodomomatsuri@gmail.com（松本）

4. あびこ子どもまつりの沿革 ※加筆できる方がいらっしゃいましたら上記アドレスまでご連絡ください。

1995 年 第1回開催。障がいをもつ我が子も家にひきこもらず、外で遊ぶ場がほしいというお母さんたちの思いから市民有志が主催。場所：手賀沼公園多目的広場を同時開催の我孫子生活センター祭りと二分。ウォークラリー、遊びのコーナー、模擬店。協力：生協、社会福祉協議会、我孫子市教育委員会。

1996 年 第2回開催。場所：手賀沼公園、我孫子中央公民館。主催：あびこ子どもまつり実行委員会。かんば助成金得て、バード・カービング、ダンボールトンネル、遊びコーナーのほか、かんば健康ウォークラリー大会、サンバパレード、世界の子どもの絵と鳥の絵画展を企画運営。入口に設置する門、懸垂幕（ヨロカ堂外壁に掲示）、横断幕、パスポート作成。協力：書道家来空氏、児童漫画インストラクター川田あきひこ氏、画家鈴木明子氏、日本野鳥彫刻創始者内山治雄氏。協賛：我孫子市こども会育成会連絡協議会、後援：我孫子市・我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会。

1997 年 第3回開催。場所：手賀沼公園、我孫子中央公民館。主催：あびこ子どもまつり実行委員会。テーマ「でっかくあそぼう、仲間をつくろう！」。協賛金：32 社 51 万円。子どもたちが世界への視野を広げる企画としてクロアチアで開かれたユネスコ「第37回世界子供の祭典」に親善大使を2名派遣、109 人の子どもたちに

よる3m×5mの自由画の寄せ書きを贈呈。返礼品として同サイズのシベニックカテドラルの絵。かんぽウォークラリー、遊びのコーナー、実行委員会の企画コーナーの3本柱で開催。おもちゃ病院、ぐりのともだちの人形劇、ホットポットファミリーバンド、バード・カービング、あびこふるさと会和太鼓、我孫子吹奏楽団・NEC吹奏楽サークル・市内の中学生による吹奏楽アワーなど。協賛：我孫子市こども会育成会連絡協議会。後援：我孫子市・我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会。

1998年 第4回開催。雨天。場所：我孫子中央公民館。我孫子青年会議所主催「エンジョイ手賀沼」同時開催。会則作成。実行委員会から企画ボランティアグループ「子まつり企画」発足。湖北近隣センターのオープン記念事業に子どもまつりパネル展示で参加。クロアチアで開かれたユネスコ「第38回世界子供の祭典」に親善大使4名を派遣、3m×5mの自由画の寄せ書きを贈る。(財)千葉県国際交流協会助成決定。遊びのコーナー、ぐりのともだちの人形劇、茶道・平安貝合わせ、プレイバックシアターなど。参加者500名以上。協賛：我孫子市商工会、柏商工会議所。後援：我孫子市・我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会。

1999年 第5回開催。場所：手賀沼公園、我孫子中央公民館。主催：あびこ子どもまつり実行委員会。ウォークラリー、あそびのコーナー、企画のコーナー。ユネスコ主催「第39回世界子供の祭典」交流継続。コソボ紛争のため親善大使派遣断念。親水広場「Enjoy!手賀沼」で合作絵を作成。交流絵画をエスパ1階吹き抜けに展示。ヨカ堂我孫子店外壁に懸垂幕を掲示。クロアチアから版画「こんな機械あったらいいなあ」到着。「あびこ国際交流まつり」展示参加。米国ウィスコンシン州「女性の翼」との会見。湖北地区近隣センター開所1周年記念展示参加。我孫子吹奏楽団定期演奏会に協力。2000人以上が参加。協賛：我孫子市商工会、柏商工会議所。後援：我孫子市・我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会。

2000年 第6回開催。場所：手賀沼親水広場と水の館。主催：あびこ子どもまつり実行委員会。昔あそびや伝統文化を伝えるあそびコーナー。ウォークラリー。ダンボール広場、吹奏楽、ユネスコ主催「世界子供の祭典」交流絵画の展示などの企画コーナー。後援：我孫子市・我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会。

2001年 第7回開催。

2002年 第8回開催。場所：アビスタ。主催：あびこ子どもまつり（子まつり企画）。共催：我孫子市教育委員会。後援：我孫子市・社会福祉協議会。昔遊びや伝統文化を子どもに伝えるコーナー、仲間づくりをめざす新しい感覚のコーナー、ジョイントコンサートや童謡を歌うなどの企画コーナー。かえっこバザール。アビスタオープニングフェスティバル参加。ミュージカル原作審査員として協力参加。あびこ子どもまつりジュニアスタッフ結成。ユネスコ主催「第43回世界子どもの祭典」交流。「ジャパンバードフェスティバル」ジュニアスタッフ参加。我孫子吹奏楽団の定期演奏会後援。教育委員会主催事業「冬休み劇場」協力。日本クロアチア友好協会クリスマスパーティ3名参加。「大きな3段ケーキ」作り。市民活動フェア参加。

2003年 第9回開催。

2004年 第10回開催。雨天。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり企画。1,678人参加。ユネスコ主催「第45回世界子供の祭典」子ども特派員5名派遣。手づくり散歩市同時開催。よさこいソーラン、生け花教室、子ども茶道教室、ネイルアートのお店、子どもオリンピック、手づくりジェットコースターなど。アビシティ方式（ハローワーク＝働いてイベント通貨アビーを得、消費活動をする）導入。参加団体が実行委員として活動する試みがスタート。「子どもまつり企画」から「子どもまつり実行委員会」に改称。年度

終了後、趣旨目的を「子どもがつくる子どものための子どもまつり」とする提案が実行委員長より提出される。
共催：我孫子市教育委員会。後援：我孫子市、我孫子市国際交流協会、我孫子市社会福祉協議会。

2005 年 第 11 回開催。雨天。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり実行委員会。524 人参加。手づくり散歩市同時開催。子どもの王国「菜の花国」とおとなの企画コーナー「おとな隣国」の設定。あびこ少年少女合唱団。どろんこ染め、どろだんご、メロメロ迷路村、けむりたいけん、芝生レストランなど。
共催：我孫子市教育委員会、我孫子市。後援：あびこ子どもネットワーク、我孫子市社会福祉協議会。

2006 年 第 12 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市教育委員会。約 1,000 人参加。むかし子ども商店街、ネイルアート、ワンダーランド株式会社、ヨット乗船体験、芝生レストラン。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市・我孫子市社会福祉協議会、あゆみの郷公社。手づくり散歩市同時開催。

2007 年 第 13 回開催。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市教育委員会。親子 2,500 人参加。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市・我孫子市社会福祉協議会、あゆみの郷公社。

2008 年 第 14 回開催。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市教育委員会。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市・我孫子市社会福祉協議会、あゆみの郷公社。

2009 年 第 15 回開催。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会・我孫子市社会福祉協議会、あゆみの郷公社。

2010 年 第 16 回開催。846 人参加。

2011 年 第 17 回開催。場所：アビスタ、手賀沼多目的広場。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会、あゆみの郷・都市建設公社。

2012 年 第 18 回開催。

2013 年 第 19 回開催。

2014 年 第 20 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。20 周年テーマ「子どもの未来は宇宙をこえて」。20 周年特別企画「未来ポスト」5 年後の自分への手紙、「あびこから宇宙へワープ」ホールで宇宙をつくろう。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2015 年 第 21 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2016 年 第 22 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2017 年 第 23 回開催。雨天。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。695 人参加。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2018 年 第 24 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。918 人参加。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2019 年 第 25 回開催。主催：あびこ子どもまつり実行委員会、我孫子市。5 年前の未来ポストの手紙を返却。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

2020 年 「2020 ネットであびこ子どもまつり」開催。主催：2020 ネットであびこ子どもまつり。新型コロナ感染拡大の影響により本来の会場開催が中止となったため「第 26 回」は次回へ持ち越し、「2020 ネットであびこ子どもまつり」としてあびこ子ネットのホームページ上に特設サイトを開設。本部企画としてクイズをオープニングで生配信する。双方向になるよう子ども記者クラブの企画で子どもたちからの感想を受け付け、動画や画像などのつくればも募集して掲載する。共催：あびこ子どもネットワーク。後援：我孫子市教育委員会、我孫子市社会福祉協議会。

文責 2020 ネットであびこ子どもまつり実行委員長 松本友子
ハローワーク情報提供 同副委員長/SO 我孫子 長谷川宏伸
子どもまつり沿革情報提供 古川恵子